

皆様へ 日大経営陣へ訴訟開始のお知らせと 2. 25 東京地裁口頭弁論へご参加のお願い

森 雄一(元日大全共闘、つくる会会員)

日大経営陣は、一昨年のアメフト事件による暴力体質の露見以来、世界に恥ずべき記者会見をした上、教育機関としての責任ある対応をしません。この状態に私たち OB は牧野富夫元副総長他の元教授達と「新しい日本大学をつくる会」(「つくる会」)を立ち上げ、現経営陣に社会への誠意ある対応と大学の改革を要求してきましたが、これを無視する現経営陣に即時退陣の要求をしました。しかし無責任対応による日大の社会的評価の低下と私学振興事業団補助金の33.5億円カット、更には受験生の大幅減少に加え、学内では非常勤講師達への雇い止めによる数々の訴訟が提起された上、昨年末には大学基準協会の「認定不適合」を受ける事態になりました。又田中理事長による(株)日大事業部は、学内の教材調達のみか校舎建て替え工事発注等、理事長肝いり役員による営利行為が行われて数々の疑念と事件があり、今や田中理事長の独裁による日大の腐敗と著しい劣化が叫ばれて、大学としての存立を危ぶまれる事態になっています。この状況下、昨年私立学校法の改正が行われて「大学財産目録の閲覧は利害関係人のみ」の制約が撤廃され、社会の公器である大学は何人でもチェックできることになりました(4月施行)。これを受けて私達「つくる会」は、昨年10月、田中理事長以下の日大経営陣を東京地裁への民事訴訟により、

1. 大学法人に与えた損害金の一部として3億5,000を補填し支払え。

2. 母校愛を侵害された原告14名各人に55,000円を支払え、との訴えを行いました。

私達は、更に元教授たち有志により刑事訴訟、現経営陣の退陣要求等の訴訟を行います。

私達は、大学の問題を訴訟により解決するべきではないと考えます。しかしこれ以上社会の公器たる大学—日大の劣化を見過ごす事はできないと考えざるを得ません。

50年前、私達は古田会頭の独裁体制により、巨額使途不明金の発覚と数々の暴力弾圧を受けました。そして'67年4月、学園民主化を求めた経済学部学生会の「羽仁五郎講演会」へ400人の体育会系右翼集団による暴力弾圧に、当時の相撲部員である田中英寿現理事長が加わっていた事は、後の調査資料に克明に記されています。又、'68年6月の経済学部校舎占拠・暴力事件では、右翼集団400名の無差別暴力により多数の学友が負傷しました。私達はあの時日大全共闘を立ち上げて数々の右翼暴力・国家的弾圧と闘いました。そして日大は私達の闘いの後、「つくる会」の元教授達により学内の改革が行われ、“民主的な”大学になる所でした。しかし'08年に理事長になった田中英寿は安倍文教政策を先取りして自らに権力を集中し、日大は再び田中英寿による独裁体制になりました。今や日大の学内には、独裁者に立ち向かう者はいません。私達日大全共闘は50年前のあの苦しい戦いを、全国の学友達と連帯して闘いました。昨年12月24日の東京地裁第1回口頭弁論は多くの有志が参加し、審理は「弁論準備手続き(当事者の非公開審理)」によらず、公開法廷審理になりました。この公開審理を維持し大法廷での審理が行われるように、できるだけ多くの皆様の法廷へのご参加をお願い致します。独裁と腐敗の日大を“社会の公器”たる大学にする為に、この国の公正を取り戻す為に、今再び皆様のご協力とご支援をお願い致します。

東京地裁第2回口頭弁論 2月25日 13時30分より 7階712号法廷

東京地裁へは、地下鉄丸ノ内線、千代田線、日比谷線「霞が関」A1出口1分が便利です。